

An aerial photograph of a rural village nestled in a valley. The village features a mix of traditional and modern buildings, including a large school complex with a circular roof and a parking lot. The surrounding landscape is a patchwork of green rice fields and brown, tilled agricultural plots. In the background, a range of rolling green mountains stretches across the horizon under a bright blue sky with scattered white clouds. A river or stream flows through the lower left portion of the village.

山江村未来づくり協議会 将来ビジョン

目次

山江村の概要	…3
山江村未来づくり協議会の概要	…4
将来ビジョン	…5～9
スローガン（全体、各部会）	…5
農用地保全部会	…6～7
地域資源活用部会	…8
生活支援部会	…9
令和6年度の活動実績	…10～11

山江村の概要

人口	総人口*：約3,162人 世帯数*：1,195世帯、高齢化率37.92% *令和6年12月末現在
産業別人口	第一次産業 288人（17.6%） 第二次産業 393人（24.1%） 第三次産業 951人（58.3%）※R5版 村政要覧資料編
面積	121.19km²（東西に9km、南北に18.6km） このうち約87%を森林、約4%を農地が占めている
地形	・標高1,302m の仰烏帽子山を筆頭に、高岳1,189m、白岩山 1,002m、肥後峠 805m 等が連なる ・この山岳地帯に源を発する万江川(24km)、山田川(12 km)は北から南に流れ、人吉市内で日本三大急流の一つである球磨川と合流している
農業	・農林業が基幹産業となっており、主な特産品は栗と米 ・農業者は250人 ※R5版 村政要覧資料編
アクセス	平成元年に開通した九州自動車道が南北に縦断しており、熊本市内から車で約1時間、隣接する人吉市の中心部からは車で約10分 ・山江村→熊本市内 車：60分（高速道路利用） ・山江村→鹿児島空港 車：50分（高速道路利用）
特徴	・栗が特産であり、令和6年3月「やまえ栗」が地理的表示（GI）保護制度に登録 ・ICTを活用した教育に力を入れており、全国学力・学習状況調査で好成績を収めている ・昼夜間人口比率（夜間人口を100としたときの昼間人口の比率）は77.3%と県内で最も低い（ベッドタウン型）

山江村の位置図



山江村未来づくり協議会の概要

対象地域	山江村全域（16地区）	設立年月日	令和6年5月10日
設立背景と目的	- 山江村を含む中山間地域では、高齢化や人口減少により、地域コミュニティの機能が弱体化してきており、農業生産活動だけでなく、農地や水路といった地域資源の保全や、買い物や子育てといった日常生活にも影響が及んでいます。このことから、地域住民の生活を守るためには、地域コミュニティ機能の維持が重要であり、農家・非農家が一体となって生産から資源管理、生活扶助まで幅広く取組む必要があります。 - このため、山江村では、これらの地域課題を解決するための持続的な取組みを行う組織として、農村型地域運営組織（農村RMO）を設立しました。		
体制	山江村未来づくり協議会 山江村未来塾100人委員会（※）をベースに村内各種団体の代表者18名にて組織 農用地保全部会 部会メンバー 100人委員会、 若手農業者、農業委員 農事組合法人 山江村議会、など6名 地域資源活用部会 部会メンバー 100人委員会、 教育委員、NPO法人 総合公園建設検討委員会 山江村議会、など6名 生活支援部会 部会メンバー 100人委員会、 復興村づくり推進委員会 民生委員、区長会 商工会女性部、など6名 山江村役場 - 企画調整課（事務局） - 産業振興課（農業分野） - 健康福祉課（福祉分野） 情報共有・連携		
山江村未来塾100人委員会（※）	概要： 山江村民の誰もが元気で楽しく暮らしやすい村づくりを目指した住民参画による村づくり組織 平成28年に設置後、自分達の夢の実現に向け、村づくり活動を実践中 部会： 観光交流部会、やまえ栗ブランド部会、福祉部会、文化教育部会、健康スポーツ部会など、10部会		

将来ビジョンスローガン

【全体】

オールやまえ
～みんなが主役の豊かな村～

【農用地保全】

やまえのもんは一等賞
～まずは栗で日本一～

山江の物や人は優れている。その中でもまずは、山江村で有名である栗で日本一を目指していこう！という想いが込められています

【地域資源活用】

金持ちになろう
～自然・経済・人の心が豊かな村～

皆が生活しやすい地域づくりをするためにも、人を呼び込むにも、何をするにもまずお金が必要。
皆が「金持ち」になれるような地域づくりをしていこう！という想いが込められています

【生活支援】

Fine Smile Salon
元気な笑顔の広場
～オール山江村がサロンです～

地区ごとの「サロン」をベースに「どこでも快適・安全に住むことが出来る山江村」を実現したいという意味が込められています

やまえのもんは一等賞

～まずは栗で日本一～

方針	施策	内容
1	農地の維持・拡大・集約	・ 村が農業委員会等と連携して地域計画を作成 ・ 県の農地バンクをとおして意欲ある農業者に農地を斡旋 ・ IターンUターンを促すために農地を準備（あわせて、移住者への優遇措置） ・ 若手農業者が増加し、スマート農業 & 大規模農業に移行 ・ 小学生が山江村で農業体験 ・ 農業、林業グループによる農林業の施業【やまえ栗ブランド部会、林研クラブ、自伐林家グループなど】
	スマート農業の導入	・ ドローンによる消毒作業の導入効果を検証、生産者へ普及【航空防除組合】 ・ デジタル活用による農業の省力化【機械利用/航空防除組合】 ・ 栗拾いロボットを実用化し、生産者に普及
2	収入の増加	・ 石蔵活用拠点施設での生栗・野菜の直売 ・ 物産館「ゆっくり」において「やまえ栗」の直売を拡大 ・ 栗の直売の集出荷の方法を確立 ・ 農産物を山江SAで販売
	収入機会の増加	・ 拠点施設においてレストランやカフェを運営 ・ 時代の駅で野菜の苗を販売 ・ 観光農園を作り、観光客に収穫体験を提供 ・ 菜園体験（週末農業など）ができる場所を作る ・ 農家レストランの運営、出店 ・ 野菜作りをいつまでも楽しみながら行う
	鳥獣被害対策	・ ICTの活用で鳥獣被害の減少

やまえのもんは一等賞

～まずは栗で日本一～

方針		施策	内容
3	栗の生産量・知名度向上	モデル栗園の整備	・ 高速道路や県道から見えるところや石蔵拠点施設に栗を植える ・ 石蔵拠点施設一帯に栗園をつくる ・ モデル栗園での実績を平地での栗栽培の普及に役立てる
		試験的な栽培	・ 平地での省力化した栗栽培を拡大するため、水田等に試験的に栗を植える（検証） ・ 川辺川造成団地での栗栽培について生産者と相談しながら幅広く検討する ・ 栗の収穫量増加に向け、川辺川造成団地に広大な栗園を作る
		労働力の確保	・ 生産者以外（大学生など）の労働力を確保する ・ 栗園の受託作業を行う組織を作る
		やまえ栗認定農家制度	・ 要件を満たした農家を認定するやまえ栗認定農家制度の創設

お金持ちになろう

～自然・経済・人の心が豊かな村～

方針		施策	内容
1	新たな観光・ 交流資源の創出	石蔵活用拠点施設整備	・ カフェ、広場、物産館、小売店の整備 ・ 遊具がある公園の整備 ・ 防災機能の付与 ・ 石畳の通りの整備
		ハゼ並木	・ ハゼの植え付け ・ 協議会が村民運動を実施
		蕎麦づくり	・ 耕作放棄地で蕎麦を栽培 ・ 栽培した蕎麦を10割蕎麦として販売
		御朱印巡り	・ プロモーションの実施
2	子どもの増加	住居整備	・ 宅地分譲・民間アパートの整備 ・ 売買手続きの簡略化により、空き家の活用を推進
		働きやすい環境整備	・ 観光で税収を増加させ、介護費用、カウンセリング費用の負担（援助）
3	農林業振興の 風土醸成	100人委員会による教育・ 指導	・ 農業、林業塾の実施 ・ 農業・林業の従事者の意識改革 ・ 若手農業分科会で農業・林業体験の復活

Fine Smile Salon ～元気な笑顔の広場～

オール山江村がサロンです

方針	施策	内容
1	余暇・嗜好の 機会増加	石蔵活用拠点の トータルプロデュース・運営
		公園整備
		行事の活性化
2	生活の 利便性向上	日用品の購入場所・方法 の増加
		移動の利便性を向上
		その他の利便性を向上
3	人的交流の 活性化	村民関係性向上
		地域外との関係性向上

令和6年度の活動実績一覧

令和6年5月10日

令和6年7月2日

令和6年8月20日-21日

第1回山江村未来づくり協議会（農村RMO） ※設立総会
農村RMO形成地区意見交換会
(川内会長、坂田副会長、事務局参加)

農村RMO中央研修会（川内会長、坂田副会長、事務局参加）



令和6年9月6日

令和6年9月17日

令和6年9月18日

第2回山江村未来づくり協議会（農村RMO） ※第1回WS
第1回農村RMO推進研究会（事務局WEB参加）
農林水産省による農村RMO形成推進事業現地調査
(川内会長、事務局参加)

令和6年10月15日

令和6年11月13日

令和6年11月28日

農村RMOに係るデジタル活用に向けた講演会
(東京大学大学院情報学環 越塚教授 参加者60名)

第3回山江村未来づくり協議会（農村RMO） ※第2回WS
第4回山江村未来づくり協議会（農村RMO） ※第3回WS



令和6年度の活動実績一覧

令和6年11月29日

九州農政局農村RMO推進フォーラム（川内会長、久保山委員、事務局参加）

令和6年12月10日

第2回農村RMO推進研究会（事務局WEB参加）

令和6年12月21日-22日

山江村未来づくり協議会（農村RMO）先進地事例調査（委員9名、事務局6名参加）



令和6年12月23日

くまむら地域再生協議会地域づくり講演会（坂田副会長、横山委員、事務局参加）

令和7年1月10日

熊本県私達の住みたいむらづくりセミナー（事務局参加）

令和7年1月24日

第5回山江村未来づくり協議会（農村RMO） ※第4回WS



令和7年1月24日

地域資源活用（石蔵活用拠点）基本計画策定